

# Mini Bus Tour!

## —Exploring Yamaguchi—

		代表者	小島 清一 (創成 M2 年)		
構成員	孟 繁紅 (東ア D2 年)	斉藤 毅 (国際 B4 年)	藤井 脩大 (経済 B3 年)		
	松熊 菜々子 (経済 B3 年)	武田 修馬 (理学 B3 年)	岡 佳弘 (経済 B2 年)		
	前田 昂佑 (国際 B2 年)	Elizabeth Moey Em Ying (経済 B2 年)	Hung Yu Syong (経済 B2 年)		
	梶浦 果鈴 (理学 B2 年)	山下 波父 (理学 B2 年)	他 39 名		

### 1. プロジェクトの背景と目的について

山口県には角島や秋吉台などの景勝地や、萩城跡などの史跡名所など多くの観光名所がある。しかし、山口大学留学生の間では、「山口県内の観光名所を回ってみたいが、どこにいけばいいかわからない、車がないため行きたくても行けない」という声が多い。そこで本プロジェクトでは、山口大学留学生を対象とするバスツアーを実施する。バスツアーでは、留学生とともに山口県内の観光地を訪れ、観光地としての魅力や将来性を調査する。調査結果はバスツアー報告会を通して広く共有し、観光政策に興味を持つ山口大学学生に新たな知見を提供する。

本プロジェクトでは、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) のテーマに沿ったバスツアーを行う。SDGs とは国際連合によって定められた持続可能な開発に関する 17 の目標である。その目標は気候変動や貧困問題、健康問題など多岐に渡る。今回のバスツアーでは、「保健・健康」、「働きがいと経済成長」、「技術革新」、「景観・街作り」、「環境」の 5 つの観点から調査する。ただ観光地として魅力的であるというだけでなく、地域社会や人類全体にとって真の意味で有益な観光地こそ良い観光地であるという考えのもと、山口県内の観光地の魅力と課題を調査する。

### 2. バスツアーの事前準備について

本プロジェクトでは、バスツアーに先立って 8 月からバスツアーの準備を開始した。バスツアーの準備は、まず留学生に対して山口県内の観光地に関するアンケート調査を行うことから始めた。アンケート調査では、交換留学生の多くが帰国する時期にも関わらず 30 名の留学生から回答を得ることができた。調査結果においては、知っている観光地として秋吉台や防府天満宮が最も多く挙げられており、角島や錦帯橋が後に続いた。一方、「センザキッチン」など道の駅の知名度は非常に低く、また、弁天池や松下村塾などの観光地の知名度も低かった。アンケート調査が終了した後、8 月中旬にバスツアーの行程を決定した。時間の都合上、岩国市や防府市は断念し、美祢市、萩市、長門市を観光するコースを策定した。コースの詳細については次節で述べる。

9 月上旬には、参加者募集の準備を開始した。まず、募集のためのチラシおよび申込み用紙を作成し、留学生に送信するメールの文面を考えた。また、この時期には、SDGs と絡めつつどんな観点から留学生に山口県の観光をしてもらおうかについての事前調査を進めた。事前調査をする際には、2 名ずつの班に分かれて各班でテーマを決めて調査をした。テーマは、「保健・健康」、「働きがいと経済成長」、「技術革新」、「景観・街作り」、「環境」の 5 種類である。各班の事前調査の概要は表 1 に示した。SDGs の具体的な調査を始めて気づいたこととしては、日本では身近なこととして捉えづらいシリアスなものも多いということであった。例えば、「保健・健康」について、マラリアや結核に関する問題などは、身近なこととしては捉えづらく、観光と絡めて議論するのは難しそうであった。9 月末には、参加者募集を開始した。参加者募集から募集締め切りまでに 70 名近くの応募があり、留学生の山口県の観光に対する関心の大きさを実感した。

10 月中旬には、参加者を決定し、参加者名簿や旅のしおり (参照, 図 1) の作成や事前打ち合わせの日程調整を行った。この際、申込用紙に電話番号を記入する欄を設けていなかったため、当選が確定したにもかかわらず連絡がつかない留学生が多く (おそらくメールを読んでいないためであると考えられる), 事前打ち合わせの日程調整は非常に困難な作業であった。この点は、バスツアーの準備に関する非常に大きな反省点であった。その後、無事に人数を確保して参加者を決定し、保険の手続きや顔合わせ会を完全に終了したのはバスツアー直前の 10 月 31 日であった。もう少し余裕を持って計画を進めるべきであったと思う。

表1 SDGsの事前調査の概要

テーマ	事前調査概要
保健・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「センザキッチン」など道の駅で売られている食品は非常に健康によい</li> <li>・ 山口県内の観光地の道路（萩城下町など）や飲食店は衛生的である（これらを踏まえて） 健康面と衛生面から山口県内の観光地を見直せば、他の国や他の県の観光地にはない新しい魅力が発見できるのではないかと？</li> </ul>
働きがいと経済成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長門市では近年観光客が急増しており、この原因はメディアで元乃隅稻荷神社が大々的に取り上げられたことであるという</li> <li>・ 萩焼きは古くから萩の経済を支えてきたが、近年後継者不足や需要の低迷などの問題に直面している（これらを踏まえて） 自然や伝統文化を守りながら地元の経済を潤す仕組みづくりはあるか？ SNS（Social Networking Service：ソーシャルネットワークサービス）やメディアを利用した知名度向上の取り組みはあるか？</li> </ul>
技術革新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 角島大橋では、海域環境への影響を最小限に抑えるためにプレキャスト工法が用いられており、学会から表彰も受けている</li> <li>・ 美祢市で採掘された石灰岩はセメント工業などに利用され、地域の採掘技術や加工技術を高める役割を果たしてきた（これらを踏まえて） 地域の特色と技術が上手く組み合わせることで、観光地としての魅力が高まる可能性はないか？あるいは逆に観光地としての魅力を高めようとして技術が発展することもありうるのではないかと？</li> </ul>
景観・街づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋吉台や萩城下町では規制によって建物の基調色が決められている</li> <li>・ 「センザキッチン」は、長門市の特産品や海に近いという環境をもとにデザインされており、グッドデザイン賞を受賞している（これらを踏まえて） 山口県内の観光地で行われている景観保護活動は、留学生の観点から見て妥当と思われるか？何か問題はないかと？</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦後、秋吉台はアメリカ空軍の演習場となる予定だったが、住民の反対運動によって阻止され、自然破壊を防ぐことができた</li> <li>・ 角島大橋の写真は遠くから撮った写真が多く非常にきれいだが、橋のふもとにはゴミが非常に多く環境に悪影響を与えている（これらを踏まえて） 観光地化することによって環境が破壊されるという問題は起きていないか？環境を保護するための地域的な取り組みは存在するか？</li> </ul>

### 3. バスツアー当日の様子について

バスツアーは11月4日（月）に実施された。バスツアーには合計27名（吉田キャンパスより26名、常盤キャンパスより1名）の留学生が参加した。ツアー当日には、この27名の留学生をSDGsの各テーマに応じて5班に分け、各班には事前調査を担当した構成員（11名）がガイドとして付き添った。

まず、バスは8時40分に吉田キャンパス第1体育館前を出発し、シェアハウスで合流する留学生達を乗車させて秋吉台に向かった。9時30分には秋吉台に到着し、1時間30分自由に散策をしてもらった。秋吉台では、留学生達は地元環境ボランティアの方から、地域の人々による野焼きによって自然環境が維持されていることについての説明を受けていた。また、景観保護のために、えんじ色と白色を基調とした建物が多いことを確認して



図1 旅のしおり（日本語版の2ページ目のみ）

いた。その後、11時30分には弁天池に到着した。弁天池では、ガイドの構成員が神社への参拝の仕方などを留学生に教えていた。

12時30分には、予定より早く松陰神社に到着し、松陰神社を見学してもらった後、萩城下町を観光してもらった。萩城下町では、信号機の色が周囲の景観に合わせて茶色であることに留学生達は驚いていた。15時20分には「センザキッチン」に到着し、見学をした。「センザキッチン」では、イカ焼きなどを買って美味しそうに食べている留学生の姿が印象的であった。その後、17時00分には角島大橋に到着した。角島大橋では、「技術革新」班の構成員が留学生にプレキャスト工法について説明をしていた。角島大橋を渡る前に、「環境」班は海岸のゴミ拾いのためにいったん別行動となり、他の班は角島灯台に向かった。18時00分に角島灯台についたころにはすでに暗くなっていたが、留学生達は、夜の灯台を見てそのきれいさに感心していた。その後、ゴミ拾いを終えた「環境」班をバスに乗せて、大学への帰路についた。



図2 弁天池での見学の様子



図3 「センザキッチン」で夕日を眺める留学生達



図4 角島大橋のふもとでのごみ拾いの様子



図5 角島大橋での集合写真

#### 4. バスツアー後の調査結果発表会について

バスツアーが終了した後は、各班で気づいたことなどをまとめ、調査結果の発表会を2回行った。1回目は練習としての予行発表でありバスツアーの参加者だけで行った。2回目は本番の発表として、教職員の方々にも参加していただき、バスツアーの参加者以外の方も交えてディスカッションした。発表の準備として11月中は、各班でバスツアーの振り返りをし、事前調査した事実を現地で実際に見て、どのようなことを感じ、学んだのかを改めて振り返った。

予行発表会は12月11日に、最終発表会は1月9日に、それぞれ実施した。最終発表会には、バスツアー参加者のほぼ全員が参加し、バスツアーで学んだことや感じたことを発表した。「働きがいと経済成長」班は、季節イベントの実施、クイズラリーの主催など具体的な政策提案をした。「環境」班は、角島大橋付近で行った清掃活動の紹介をし、環境問題が観光と密接に結びついた国際問題であることを指摘した。「保健・健康」班は、健康面と衛生面から山口県内の観光地の強みと弱みを分析した。「技術革新」班は、角島大橋に用いられている環境保護のための建築技術などを紹介し、高い技術力が観光業に貢献していることを説明した。「景観・街作り」班は、秋吉台や萩市の景観保護の取り組みについて、調べたこととバスツアー中に気づいたことを紹介していた。各班ともに最後はバスツアーの感想でまとめていた。この発表会には経済学部観光政策学科の先生方や留学生交流係の職員さんも参加され、多くの質問やアドバイスをいただくことができた。参加した日本人学生にとっても非常に勉強になる内容だったと思う。景観保護の問題を含め、観光に関する問題には答えがないものも多い。様々や考えを持つ人々が議論していくことが大事だと感じた。

#### 5. プロジェクト終盤に行った反省会について

プロジェクト終盤の2月にはプロジェクト全体の反省会を行い、反省点をまとめた。反省会では、作業負担が少数の人に集中していたことやミーティングの効率が悪かったことなどが意見として出された。また、バスツアー自体の反省点としては、昼食の時間が短かったことや各観光地での滞在時間が短すぎたり長すぎたりしたことなどが挙げられた。これらは、バスツアーを実際にやってみないと分からないことであり、貴重な反省点だった。



図6 最終発表会の様子 I



図7 最終発表会の様子 II



図8 最終発表会の様子 III



図9 最終発表会の様子 IV



図 10 最終発表会の様子 V



図 11 最終発表会の様子 VI

バスツアー後に行った調査結果の発表会については、発表会の意義が留学生に上手く伝わっておらず困惑した留学生が多かったという意見が出た。留学生に対して、発表の目的や方向性を十分に説明できていれば、留学生ももう少しスムーズに準備をすることができたかもしれない。いずれの反省点も、「山口大学おもしろプロジェクト」に関わらず大事なことであり、改善していく必要があると感じた。

## 6. プロジェクトを終えての感想

プロジェクトを終えての感想として、まず留学生の山口県の観光に対する関心の大きさに非常に驚いた。応募者が 70 名を超えたという事実は、山口大学の多くの留学生が山口県の観光に興味を持っていることを示していると考えられる。ツアー参加者と話していた際には「山口県の観光名所は車がないと不便な場所が多く、東京や大阪よりも山口県内の観光地に行く方が難しい」という人が多かった。

また、外国人を対象として観光ガイドをすることは非常に難しかった。バスツアーでは保険の説明や連絡事項の伝達などにおいて、お互いの言語や文化が異なることが原因で多くの困難が生じた。しかし、こうした困難の中でも、各構成員が担当した業務をしっかりと実行してくれたことにより、多くの留学生を連れて一度の遅刻もなくバスツアーを実施することができた。今回のバスツアーの準備では、構成員全員が重要な役割を果たしており、それぞれにとって良い勉強となった。また、保険のことや予算のことなどに関して、学生だけでは気づけないことも多く、学生支援課の重松さん、学生自主活動ルームの辻先生、石井さん、支援教員の中野先生よりご指摘をいただいてその都度修正することで安全で本格的なバスツアーになったと思う。角島灯台に行ったときに、ある留学生が「山口県にこんなにきれいな場所があるとは知らなかった。このバスツアーがなければ、この場所の存在を知らないまま帰国していただろう」と言ってくれたときには、困難を乗り越えてバスツアーを無事に実施できて本当に良かったと感じた。